

**経済産業省/株式会社日本総合研究所 主催セミナー  
「認知症予防に資するヘルスケアサービスのあり方」  
～民間企業の求められる役割とは～**

**認知症予防サービスにおける当事者の  
困りごとと事業者へのお願い**

**2024年2月14日**

**(一社) SPSラボ若年認知症サポートセンターきずなや**

**平井 正明**

# 私の紹介

- 1961年（昭和36年）生まれ 63歳 奈良県在住
- 2015年（平成27年）春頃より、頭にふわっとした感覚が常にするようになり、仕事の効率が低下してきたことから精神科の医院を受診。脳神経内科の専門医を紹介される。（54歳）
- 2017年（平成29年）6月にMCI（軽度認知障害）もしくはアルツハイマー型認知症の初期段階との診断を受け退職（56歳）
- 2018年（平成30年）3月より、奈良市の「一般社団法人SPSラボ若年認知症サポートセンターきずなや」で活動開始  
同年4月 当事者自ら活動する団体「まほろば倶楽部」を設立
- 2020年（令和2年）4月奈良県委託事業「奈良県若年性認知症サポートセンター」の委託業務にピアサポート活動が加わり、サポートセンターの一員としてピアサポート活動に従事

# “認知症の予防” ということばの呪縛

認知症を予防する ということは、決して間違いではありません

認知症に限らずどんな病気・怪我也予防に取り組むことは大切です

一方、どんなに予防しても、歳を重ねればいつかは認知症に出会う時が来ます

“認知症の予防”という言葉に、

**認知症になることはいけないこと！**

**認知症になることは恐ろしいこと！**

**認知症になるとおしまいだ！**

**という刷り込みが行われていませんか？**

## 認知症 = もの忘れ（記憶力の低下）という固定概念

「物忘れが認知症の全て」であると感じていませんか

認知機能には、記憶力以外にもいろいろな項目があります

実行機構

遂行機能

視空間認知

見当識

などなど

**実生活では、記憶力以外の項目の機能低下、身体能力の低下の方が生活に支障をきたす  
度合いが大きいと感じています**

# ヘルスケア産業への期待

新薬の登場で、これからますます**MCI**（軽度認知障害）・初期段階の認知症の気づきの重要性が増していきます

多くの当事者は、**今の状態を維持・改善したい**という思いを持っており、そのために**現状にプラスして何か自分に役立つもの**が必要と感じています

しかし、特にMCIの人にはまだまだ医療の選択肢が少なく、新薬もごく限られた人にしか適用されないという現実があります

医療に代わる **非薬物療法・ヘルスケア産業** への期待は非常に大きいです  
期待が大きい故に、**選択に当たっての迷い、使っていくうえでの不安**もあり、これらを可能な限り解消していくことが必要と考えます

# 認知機能評価の難しさ わかりにくさの克服

その商品・サービスを使って、本当に認知機能が改善・予防できているのだろうか？  
改善しているという実感が得られているのだろうか？

やめるにやめられない 心理状態になっていないのだろうか？

・やめたら症状が進行するのではないか という **不安**

認知機能は、実はその人の生活習慣・環境が大きく影響していて、何が効いているのか判らない状態になっていないか？

認知機能の定量的・客観的な評価方法・基準の開発、当事者参画による評価検証

認知機能の改善を示すデータが正しく開示され、誰でも簡単に見ることが出来るようなくみづくり

企業規模等に関係なく、本当にいいものが評価され成長する市場環境の形成